

活かされたか

平成21年度決算を認定

あたりの 借金

177,000円
702,000円

70億383万4千円
276億7,811万4千円

平成22年3月末現在の
で除した額
を含む)

○財政指数の推移

	18年度	19年度	20年度	21年度
財政力指数	0.293	0.305	0.310	0.300
実質収支比率	6.1	4.2	4.1	4.0
経常収支比率	89.1	90.4	90.6	88.0
公債費比率	17.5	16.2	14.6	13.1

～一般会計への審査意見～

一般会計の決算審査は、予算の執行状況、成果等を審査しました。

①財政力指数

行政の仕事を行うのに必要な費用を自前で調達できるかを示す数値のこと。1.0に近づくほど望ましいとされています。曾於市は0.300で一層の努力が必要です。

②実質収支比率

実質収支額を標準財政規模で割ったもので、3%から5%が望ましいとされています。

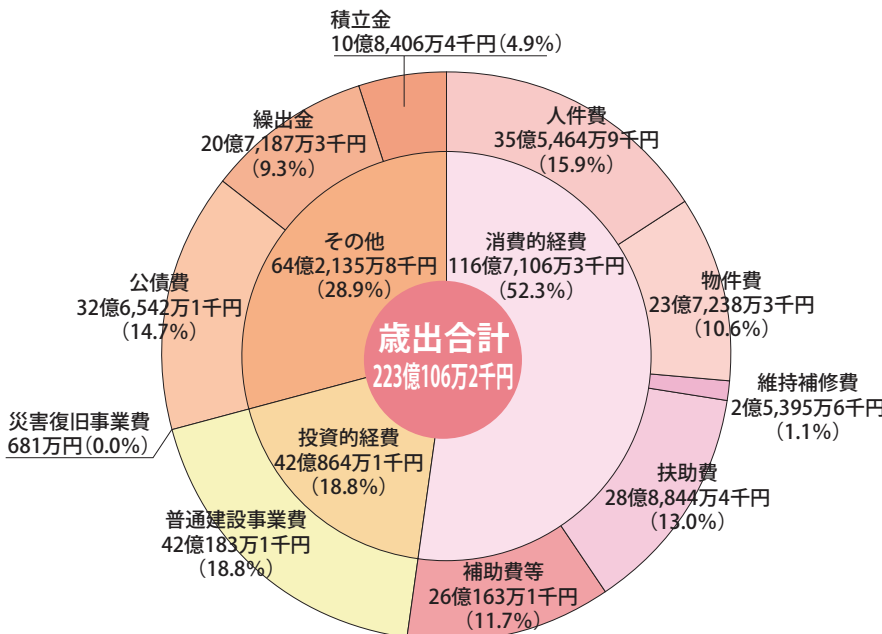
21年度は、4.0%で、数値の範囲内で計画的な財政運営でした。

③経常収支比率

人件費などの経常経費が一般財源にどの程度しめるかで財政の弾力性を示し、75%以下が望まれます。21年度は88.0%、20年度は90.6%であるが引き続き改善に向けて努力すべきです。

④公債費比率

一般財源にしめる公債費(借金)の割合で10%を越えないことが望ましいとされています。21年度は13.1%、20年度は14.6%だったので、15%改善されてはいますが、引き続き努力すべきです。



○歳出関連用語解説

消費的経費

市政を運営するために毎年必ず確保しなければならないお金(家庭で考えると、食費や光熱水費、交通費など)

投資的経費

建物、道路等建設に関する経費
毎年規模や額は変わる
(家庭で考えると、地デジなどのテレビ購入、家の増築など)

その他

公債費の元金や利息の返金、特別会計運営のための支援など
(家庭で考えると、家や車代のローン返済金、貯金の積立など)

扶助費

高齢者・障害者等に対する援助費等福祉及び教育支援経費など

まちづくりはどう

歳出総額332億円の

10月22日第4回臨時会を開会し、平成21年度一般会計・特別会計決算の認定をしました。

12月定例会は、12月6日開会し、平成22年度補正予算や曾於市山中貞則顕彰記念事業基金条例の制定など諮問1件、議案17件、請願2件、陳情1件、発議4件を審議・議決しました。また、地方分権改革への取組みが本格化するなか議会の機能を十分発揮するため「議会運営等調査特別委員会」を設置しました。

市民一人
貯金と
借金

基金(貯金)総額
市債(借金)総額

※一人あたりの金額は、
推計人口39,382人
(一般会計と特別会計)

平成21年度 会計別決算状況 (千円以下切り捨て)

会計名	歳入総額	歳出総額	
一般会計	229億2,153万円	223億 106万円	
特別会計	国民健康保険	59億9,086万円	58億2,301万円
	老人保健	5,184万円	5,184万円
	後期高齢者医療	4億8,295万円	4億8,219万円
	介護保険	44億 425万円	40億5,560万円
	公共下水道事業	4億2,974万円	4億2,505万円
	生活排水処理事業	9,721万円	9,497万円

○歳入関連用語解説

自主財源

市税を始め、使用料や手数料など市が自主的に収入する財源のこと(家庭で考えると、給料や土地等の支払収入など)

依存財源

地方交付税や国・県支出金など国や県から交付される財源のこと(家庭で考えると、家や車代のローン、児童手当等の市や国からの支援、農業等への国からの補助金のこと)

地方交付税

所得税など国が徴収した税金の中から市の財政状況に応じて交付されるお金

市債

市の借金のこと。大きな事業を行うため国や金融機関から借り入れるお金

